

秋田市教育委員会
平成29年9月定例会
(当日配布資料)

【目次】

教育長等の報告

- (3) 平成29年度全国学力・学習状況調査における秋田市の調査結果について

平成29年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果について

● 調査概要 ●

この全国学力・学習状況調査は、文部科学省が、義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、教育施策の成果と課題を検証し改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や改善に役立てることを目的として、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、平成19年度から継続して実施してきました。

今年度は、国語と算数・数学の2教科に関する調査と、生活習慣や学習環境等についての質問紙調査が行われ、秋田市では、小学生2,315名、中学生2,422名が参加しました。

● 本市調査結果の概要 ●

【教科調査の概要「全般」】

- 各教科の領域ごとの平均正答率が、小学校中学校共に全国平均を上回りました。
- 各教科の無解答率について、小学校では、全ての設問で全国平均を下回りました。また、中学校では、国語Aの1問を除き、全国平均を下回りました。
- 全国的な傾向と同様、国語、算数・数学共に、主として知識に関するA問題に比べ、主として活用に関するB問題の正答率が低い傾向にあります。

【教科調査の概要「国語」】

- 小学校では、学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことや、ことわざの意味を理解すること、俳句の情景をとらえることなどがよくできていました。
一方、話し合いにおける発言の意図をとらえることなどについては、課題があると考えられます。
- 中学校では、文脈に即して漢字を正しく読むことや、目的や意図に応じて材料を集め、自分の考えをまとめることなどがよくできていました。
一方、事象や行為などを表す多様な語句について理解することや、表現を工夫しながら自分の考えを書くことなどについては、課題があると考えられます。

【教科調査の概要「算数・数学」】

- 小学校では、計算方法の意味を理解すること、商を分数で表すこと、資料を二次元表に整理することなどがよくできていました。
一方、示された方法を問題場面に適用して課題解決すること、もとにする量・比べられる量・割合の関係を的確にとらえ、判断の理由を数学的に表現することなどについては課題があると考えられます。

平成29年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果について

- 中学校では、ある数を基準として様々な数量を正負の数で表すこと、一元一次方程式を解くこと、平行移動した三角形をかくことなどがよくできていました。
一方、移動に着目して図形をとらえ説明すること、関数の定義や比例定数の意味を理解すること、表やグラフの特徴を的確にとらえ、判断の理由を説明することなどについては課題があると考えられます。

【児童生徒質問紙調査の概要】

- [自分自身について] 「自分には、よいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたい」など、自分自身のよさを知り、向上心をもって生活している子どもの割合が、全国平均を上回っています。また、「学校のきまり（規則）を守っている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」など、規範意識を持って生活している子どもの割合も、全国平均を上回っています。
- [人との関わりについて] 「授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う」と回答した子どもの割合が、全国平均を上回っています。また、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある」など、地域や社会への関心が高まっている子どもの割合も、全国平均を上回っています。
- [家庭生活について] 「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に起きる・寝る」など、基本的な生活習慣を身に付けている子どもの割合が、全国平均を上回っています。また、家で「自分で計画を立てて勉強する」「学校の授業の予習をする・復習をする」など、家庭での学習の習慣が身に付いている子どもの割合も、全国平均を上回っています。
- [学習について] 「学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいる」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」など、主体的、協働的に学習活動に取り組んでいる子どもの割合が全国平均を上回っています。
「授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしている」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」などの質問に肯定的な回答をした子どもの割合も、全国平均を上回っています。

小学校国語A「主として知識に関する問題」 領域ごとの調査結果の主な特徴【平成29年度】

● 話すこと・聞くこと ● 問題 1

学級文集のタイトルを決める話合いにおける報告の説明として、適切なものを選択する問題の正答率は75%でした。誤答となった25%のうち、報告の場面で、対象ではない報告の内容と結び付けたために誤答となったと考えられる割合は14%でした。

● 書くこと ● 問題 2

お礼の手紙に書かれている内容の説明として、適切なものを選択する問題の正答率は83%でした。

手紙の後付けに必要な日付、署名、宛名のそれぞれの位置について、適切なものを選択する問題の正答率は49%でした。公的な手紙の書き方に関する知識について、課題があると考えられます。

● 読むこと ● 問題 3、4

学校新聞を書くために、資料の中から必要な情報が書かれている段落を選択する問題の正答率は81%でした。

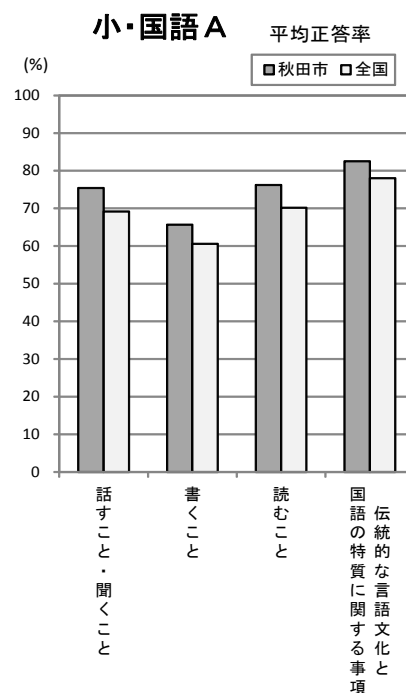
好きな俳句を紹介するための話合いで、情景について考えたこととして適切なものを選択する問題が85%、紹介しようとする俳句のよさについて、適切なものを選択する問題が63%の正答率でした。

● 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ● 問題 4、5、6、7

漢字の「読み」の問題では、90~98%の正答率でした。「書き」の問題では、「対象」が45%、「希望」が88%、「置(く)」が82%の正答率でした。「たいしょう(対象)」を漢字で書く問題では、「対」のみ(「対照」を除く)を解答した割合が全体の17%、同音異義語である「対照」と解答した割合が全体の3%でした。【問題例参照】

ことわざの使い方として、適切なものを選択する問題では、「三度目の正直」が93%、「もちほもち屋」が89%の正答率でした。

歌舞伎の作品を音読して気が付いたことの説明として、適切なものを選択する問題の正答率は78%でした。



【課題となっている問題例】

7

4年生のみなさんへ

放送委員会

委員会活動の体験のお知らせ

1 日時

2 集合場所

3 参加 (1)たいしょう
4年生の (2)きぼう者

正答 (1)対象 (2)希望

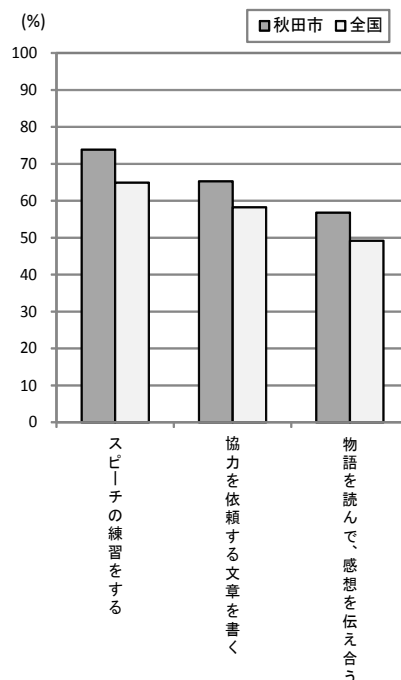
小学校国語B「主として活用に関する問題」 大問ごとの調査結果の主な特徴【平成29年度】

● 1 スピーチの練習をする ●

スピーチの練習の様子を撮影した動画を見る目的について、適切なものを選択する問題の正答率は84%でした。

スピーチメモの内容と、グループでの話し合いで出された意見を取り上げ、スピーチを再考する問題の正答率は61%でした。スピーチメモから情報を取り上げずに誤答となった割合は全体の22%、話し合いでの意見を取り上げずに誤答となった割合は全体の8%でした。収集した情報を関係付け、目的に応じて考えをまとめることに課題があると考えられます。

小・国語B 平均正答率



● 2 協力を依頼する文章を書く ●

依頼内容の必要性を訴える文章の構成の工夫について、適切なものを選択する問題は76%、友達を説得するため、本文から最も効果的な一文を選択する問題は77%の正答率でした。

アドバイスをもとに、依頼する理由を記述する問題の正答率は43%でした。アドバイスの内容を踏まえていないために誤答となった割合は34%でした。目的や意図に応じて情報を収集し、全体を見通して事柄を整理することに課題があると考えられます。

● 3 物語を読んで、感想を伝え合う ●

物語「きつねの写真」を読み、登場人物の相互関係と場面についての描写について、適切なものを選択する問題の正答率は81%でした。

物語を読んだ後の話し合いにおける二つの発言の意図をとらえる問題の正答率は33%でした。誤答のうち、アのみ正答の割合は全体の7%、イのみ正答の割合は全体の44%でした。【問題例参照】

物語文の言葉や文をもとに、登場人物が考えたことについて、自分の考えを記述する問題の正答率は57%でした。言葉や文を取り上げているものの、どのように解釈したのかを書くことができずに誤答となった割合は27%でした。叙述をもとに理由を明確にして、自分の考えをまとめることに課題があると考えられます。

【課題となっている問題例】（問題部分のみ）

田中 二人を写したはずの写真にきつねが写っていたんだから、きつねだよ。

原 ア、どこからそう思うの？

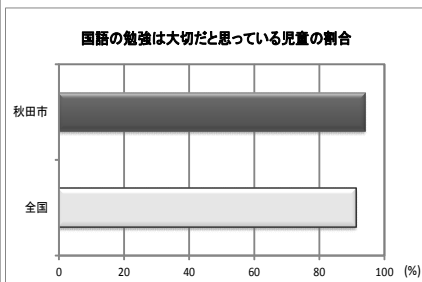
（中略）

田中 ②を示しながら「ここで、松ぞうじいさんが「ついできなせえ」と言っているところがあるでしょ。私は、ここからきつねってわかる気がするんだけど、どうかな。」

原 私もそう思う。松ぞうじいさんは、きつねだからきつねのすんでいた穴の場所を知っていて、案内できたんだよね。イ、田中さんの言いたいことは、松ぞうじいさんでいいのかな？

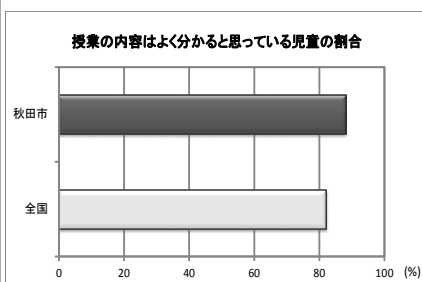
※正答例等は、紙面の関係で省略します。

質問紙調査から「国語の学習について」



本市では、生涯にわたって学び続ける力を育成するために、子ども一人ひとりが学ぶ意義や、「『分かった』『できた』を実感し、『もっと学びたい』という意欲が持てるような授業」づくりを大切にしています。

「国語の勉強は大切だと思うか」という質問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は、94%でした。多くの児童が国語を学習することの意義を感じていると考えられます。また、「国語の授業の内容はよく分かるか」という質問に対して肯定的な回答をした児童は88%で、全国平均を6ポイント上回っています。



解答を文章で書く問題で、「最後まで解答を書こうと努力した」と回答した児童の割合は85%で、全国平均を8ポイント上回っています。

「読書は好きか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は81%で、全国平均と比べて7ポイント上回っています。全校一斉読書の実施や学校図書館サポーターの効果的な活用など、各校の活動の成果が現れているものと考えられます。

授業の内容に関する質問では、「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている」と回答した児童は83%で全国平均を9ポイント、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」と回答した児童の割合は80%で、全国平均を12ポイント上回っています。

小学校国語「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査(ペーパーテスト)では測れない学力として、学習に対する意欲や関心に加え、音読や朗読する力、自分の考えを発表する力、話題に沿って話し合う力など、音声による表現力があります。

各校では、単元のねらいを達成するために、単元導入時において既習事項を活用した言語活動を設定したり、身近な生活場面と関連付けた体験活動を取り入れるなど、具体的な手立てや単元構成が工夫され、子どもたちが主体的に学習に取り組む様子が見られます。伝統的な言語文化の学習では、音読や暗唱を通して言葉の美しさやリズムを感じ、表現するおもしろさを味わったり、昔の人のものの見方や考え方、作者の思いについて交流するなど、楽しみながら学習活動に取り組む子どもたちの姿が見られます。

しかし、聞き手を意識して表現や構成を工夫することや、集めた材料を比較したり分類したりして伝え合う内容を検討することなどについては、十分とは言えない状況にあります。

学習指導改善のための今後の方策

●主に知識に関する調査結果から●

「話すこと・聞くこと」については、話し手の意図や話合いの方向性をとらえながら話を聞き、互いの立場や意図を明確にしながら話し合う力を高める指導の充実を図ります。

「書くこと」については、目的や意図に応じて自分の考え方が伝わるように書き表し方を工夫して書く力を高めるとともに、書く楽しさや表現する喜びを実感することができるような指導の工夫を図ります。

「読むこと」については、目的に応じて必要な情報を見付けたり、叙述をもとに理由を明確にして自分の考えをまとめたりすることができるよう、文章の種類に応じた読み方を身に付けさせる指導の充実を図ります。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、日常生活や各教科等の学習と意図的に関連させ、学ぶ楽しさや必要感に結び付くような指導の工夫を図ります。

●主に活用に関する調査結果から●

図などによる語句と語句との関係の表し方や、付箋紙を用いた情報の整理の仕方等、収集した情報を関係付け、分類する力を身に付けるとともに、相手意識を明確にして自分の考えをまとめることができるよう、場面や状況、目的などに応じて事柄を整理する力を高める指導の工夫を図ります。

理由を明確にして自分の考えをまとめることができるよう、叙述をもとに登場人物の心情を想像したり、複数の叙述をもとに人物像をとらえるなど、根拠となる事実を明らかにしながら読む力を高める指導の充実を図ります。

●本調査では測れない学力の状況から●

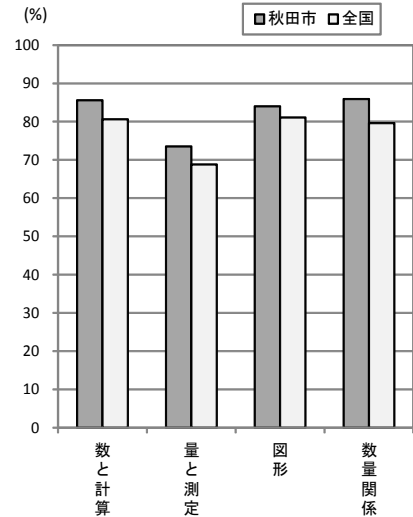
聞き手を意識して表現や構成を工夫することや、集めた材料を精査・解釈して自分の考えをまとめる力を高めることができるような指導の充実を図ります。また、お互いの考えを吟味したり、検討したりする過程を大切にしたい指導の工夫を図ります。

小学校算数A「主として知識に関する問題」 領域ごとの調査結果の主な特徴 【平成29年度】

● 数と計算 ● 問題 1、2、3

1 mのリボンの値段をもとにして、2 m、3 mのリボンの代金を求める問題の正答率は98%でした。60×0.4を60×4をもとにして考えるときの、正しいかけ算の方法を答える問題の正答率は91%、1より小さい小数をかけるかけ算で、それぞれの数を数直線に表す問題の正答率は80%でした。商を分数で表す問題の正答率は83%で、全国平均を13ポイント上回っています。

算数A 平均正答率



● 量と測定 ● 問題 4、5

重さや長さを別のものに置き換え、いくつ分になるかで比べているものを選ぶ問題の正答率は78%で、全国平均を7ポイント上回っています。

一方、示された平行四辺形の面積の半分の面積である三角形を選ぶ問題の正答率は69%でした。底辺の長さが高さがそれぞれ等しい平行四辺形と三角形は、図形の向きや形が変わっても、三角形の面積は平行四辺形の面積の半分であることを理解することに課題があると考えられます。

【問題例参照】

● 図形 ● 問題 6、7

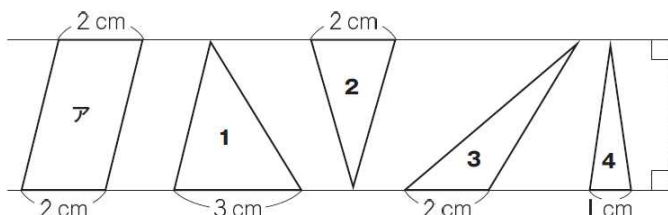
立方体の展開図から、示された面と平行な面を選ぶ問題の正答率は89%でした。また、円を使って正五角形をかくとき、円の中心のまわりの角を何度にするかを求める問題の正答率は79%で、全国平均を4ポイント上回っています。

● 数量関係 ● 問題 8、9

資料を二次元表に分類整理する問題の正答率は93%でした。また、資料から二次元表の合計欄に入る数を求める問題の正答率は79%で、全国平均を17ポイント上回っています。

【課題となっている問題例】 5 高さが等しい図形の面積

平行な2本の直線を使って、平行四辺形や三角形をかきました。下の1から4までの三角形の中で、平行四辺形アの面積の、半分の面積であるものはどれですか。



正 答 2, 3 (69%)
誤答例 2のみ (8%)
 3のみ (2%)

小学校算数B「主として活用に関する問題」 観点ごとの調査結果の主な特徴 【平成29年度】

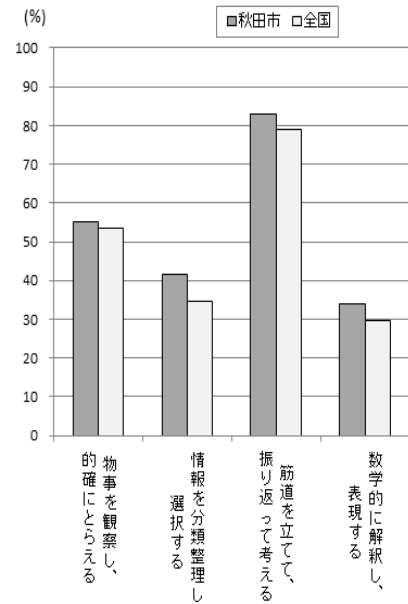
● 物事を観察し、的確にとらえる ● 問題 2、3、5

13本の直線を使う場合、手紙の用紙の長い辺を3等分するのは、何本目の直線と交わった点かを書く問題の正答率は29%、飛び離れた記録を除いた場合の平均を求める式を選ぶ問題の正答率は67%でした。示された方法を的確にとらえ、他の場合に適用して解決方法を考えること、場面や状況に応じた適切な求め方を把握することに課題があると考えられます。

● 情報を分類整理し、選択する ● 問題 4

割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶ問題の正答率は37%、二次元表において、示された式の数が何を表しているかを書き、その数が表のどこに入るかを選ぶ問題の正答率は46%でした。目的に応じた表やグラフを選択したり、示された数の意味が表やグラフのどこにあてはまるかを選択したりすることに課題があると考えられます。

算数B 平均正答率



● 筋道を立てて、振り返って考える ● 問題 1

2けたのひき算の答えの求め方を振り返り、数を変更した場合も同じことが言えることを図に表す問題の正答率は84%、ひき算の例を振り返り、数を変更した場合の例を答える問題の正答率は82%でした。

● 数学的に解釈し、表現する ● 問題 1、2、3、5

与えられた情報から、もとにする量、比べられる量、割合の関係をとりえ、「最大の満月の直径」に近い硬貨を選び、選んだわけを書く問題の正答率は15%、仮の平均の考えを使い、記録の平均の求め方を説明する問題の正答率は23%でした。身近なものに置き換えたもとにする量と割合から、正しい比べられる量の大きさにあてはまるものを選び、その理由を表現すること、示された考えを解釈し、他の場合に適用した解決方法を書くことに課題があると考えられます。【問題例参照】

【課題となっている問題例】 5(2) 見かけの月の大きさ

月の直径を、硬貨の直径に置きかえて考えます。1円玉、100円玉、500円玉の直径は、それぞれ下の通りです。

「最小の満月の直径」を1円玉の直径としたときに、「最小の満月の直径」をもとにして14%長くなっている「最大の満月の直径」は100円玉と500円玉のどちらの直径に近いですか。

下の1と2から選んでその番号を書きましょう。また、選んだ硬貨のほうが「最大の満月の直径」に近いと考えたわけを言葉や式を使って書きましょう。

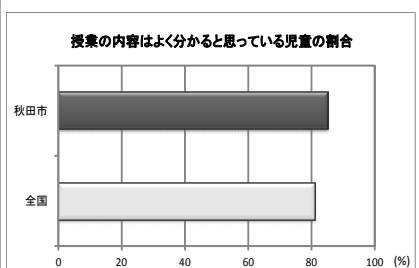
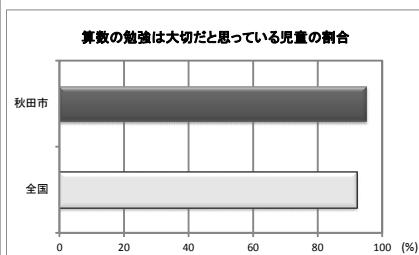
- 1 100円玉 2 500円玉

正答 1
正答例

- (1) 20×1.14 を計算して、22.6と26.5に近い方を選んでいるもの
- (2) $22.6 \div 20$ 、 $26.5 \div 20$ を計算して、1.14に近い方を選んでいるもの
- (3) $22.6 \div 1.14$ 、 $26.5 \div 1.14$ を計算して、20に近い方を選んでいるもの

1円玉	100円玉	500円玉
		
20mm	22.6mm	26.5mm

質問紙調査から 「算数の学習について」



本市では、生涯にわたって学び続ける力を育成するために、子ども一人ひとりが学ぶ意義や、「『分かった』『できた』を実感し、『もっと学びたい』という意欲が持てるような授業」づくりを大切にしています。

「算数の勉強は大切だと思うか」という質問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は95%でした。多くの児童が算数の学習は大切なものと感じています。また、「算数の授業の内容はよく分かるか」という質問に対し肯定的な回答をした児童は85%で、全国平均を5ポイント上回っています。

「算数で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えるか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は81%で、全国平均を12ポイント上回りました。

学習に臨むにあたって「公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしているか」という質問に対して90%の児童が肯定的な回答をしています。また、「問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えているか」、「解き方が分からないときあきらめずにいろいろな方法を考えるか」という質問に対し肯定的な解答をした児童は、いずれも87%でした。

小学校算数「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査(ペーパーテスト)では測れない学力として、「学ぶ意欲」などの興味・関心に関するものや、自分の考えを伝える力、相手の考えを聞き取る力などがあります。

各校では、算数的活動がより一層充実されています。教師があえて遠回りな方法を例示すること、既習事項を可視化できるようにすることなどの工夫により、児童はよりよい解決方法を考える意欲をもち、粘り強く課題に取り組んでいます。また、話形を明示することや、黒板の前に集まって他の児童の発表を聞くことなどの取組により、児童の伝える力や聞き取る力も育ってきています。

一方で、課題解決の見通しを全体で共有化しすぎるため、グループでの学び合いが活性化しない場面も見られます。児童一人ひとりの学習状況や思考過程をしっかりと把握し、「伝えたい」、「聞きたい」という気持ちがより一層はぐくまれるよう、授業展開を工夫する必要があります。

学習指導改善のための今後の方策

●主に知識に関する調査結果から●

「数と計算」では、計算を形式的に処理したり、計算の順序のきまりを単に暗記したりするだけでなく、具体的な場面と式の表現とを結び付けて考える学習を重視します。

「量と測定」では、具体的な操作活動を通して、面積の公式の意味や二つの図形の面積の関係などを実感的に理解する活動の充実を図ります。

「図形」では、具体物を用いた図形の構成や分解などの活動を通して、図形の感覚を豊かにし、その性質の理解を深める指導を重視します。

「数量関係」では、問題場面から目的に応じて資料を整理したり、整理されたものから情報を読み取ったりする活動の充実を図ります。

●主に活用に関する調査結果から●

日常生活の事象を、平均や割合、表やグラフなど、算数の学習内容を活用して数学的に解釈し、事柄を適切に判断したり、判断した理由を数学的に表現したりする学習の充実を図ります。特に、目的をもって情報を収集・整理し適切に判断する活動や、判断の根拠を具体的な数量を示しながら説明する活動の充実を図ります。また、示された方法や考えを解釈し、条件の異なる場面に適用して問題を解決する学習の充実を図ります。

●本調査では測れない学力の状況から●

一人ひとりが主体的に取り組む学習を通し、「分かった」「できた」を実感させ、「もっと学びたい」という学習意欲の向上につながるような授業づくりを重視します。そのために必要感のある課題を設定したり、多様な考え方にふれることができるよう学習過程を工夫したりするなど、主体的な学びを促す工夫をします。また、生徒の一人ひとりの理解度の把握に努め、例示する既習事項の内容やタイミング、適用問題の内容や難易度を吟味することにより、一人ひとりの達成感とやる気が向上する指導の充実を図ります。

中学校国語A「主として知識に関する問題」 領域ごとの調査結果の主な特徴【平成29年度】

● 話すこと・聞くこと ● 問題 2、7

スピーチをより分かりやすくするために、イラストを提示する箇所として適切なものを選択する問題は92%、スピーチの構成を説明したものとして適切なものを選択する問題は83%の正答率でした。

テーマに沿った本を探すために先生に相談する場面で、必要な情報を得るために、適した質問の仕方に直す問題は60%、結論にたどり着いた理由として適切なものを選択する問題は85%の正答率でした。

● 書くこと ● 問題 3、5

自分の体験をもとにして書いた物語の下書きを、語句の使い方に工夫して書き直す問題の正答率は90%でした。読み手により伝わるように適切に書くことができず、誤答となった割合が7%でした。物語に一文を書き加えることにした理由となる友達の助言について、適切なものを選択する問題の正答率は89%でした。

「生徒会だより」の下書きの文章の構成について、適切なものを選択する問題は84%、文章に書き加える具体例の情報として、適切なものを選択する問題は96%の正答率でした。

● 読むこと ● 問題 4、6、8

文学的な文章を読んで、登場人物の説明として適切なものを選択する問題は81%、本文中の叙述の意味として、適切なものを選択する問題は65%の正答率でした。

詩と、その詩についての「感想の交流の一部」を読み、表現の仕方について適切なものを選択する問題は86%、感想の交流の様子について説明したものとして、適切なものを選択する問題は79%の正答率でした。

● 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ● 問題 1、9

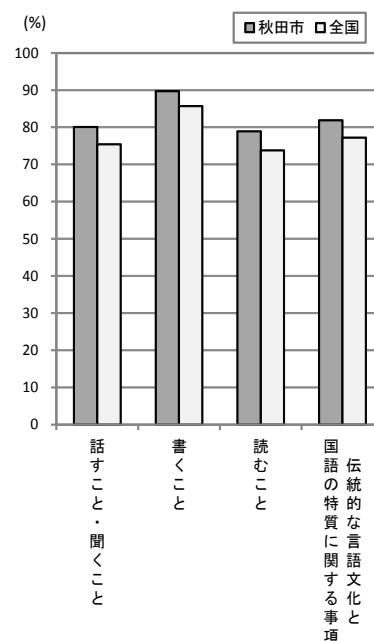
画面に示された字幕の説明として、適切なものを選択する問題の正答率は87%でした。

漢字の「読み」の問題は97~99%の正答率でした。「書き」の問題では、「きぼ（規模）」が79%、「えんき（延期）」が74%、「いとなむ（営む）」が91%の正答率でした。

ことわざに関する問題の正答率は67%でした。話合いの記録として適切な言葉を考える問題は47%

【問題例参照】、徒然草の冒頭部分と、その現代語訳を読み、指示された部分に対応する意味を抜き出す問題は81%、作品の種類として適切なものを選択する問題は77%の正答率でした。事象や行為などを表す語句の理解について、課題があると考えられません。

中・国語A 平均正答率



【課題となっている問題例】

校内でのあいさつを活発にするための取り組み

活動内容案	結果
1 標語やポスターの募集と掲示を行う。	可決
2 登校時間に校門の前であいさつや呼びかけを行う	<input type="checkbox"/>
3 下校時間に校門の前であいさつや呼びかけを行う。	否決

正答 再検討

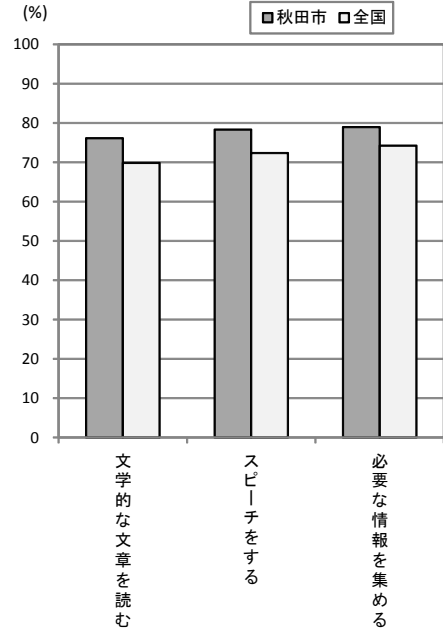
中学校国語B「主として活用に関する問題」 大問ごとの調査結果の主な特徴【平成29年度】

● 1 文学的な文章を読む ●

本の紹介カードと、紹介された本の一部を読み、登場人物の様子が具体的に表現されている箇所として、適切なものを選択する問題は90%、地の文(会話以外の説明や叙述の部分)にある言葉を発した人物を、文章中から抜き出す問題は88%の正答率でした。

本の一部から、比喻を用いた表現が含まれる一文を抜き出し、「誰(何)」の「どのような様子」なのかを明確にした上で、感じたことや考えたことを記述する問題の正答率は50%でした。比喻を用いた一文を抜き出すことができずに誤答となった割合、「誰(何)」の「どのような様子」なのかを明確にすることができずに誤答となった割合は、いずれも全体の9%でした。表現の工夫について理解することに課題があると考えられます。【問題例参照】

中・国語B 平均正答率



● 2 スピーチをする ●

スピーチの中で実演を行った意図として、適切なものを選択する問題は91%、聞き手が話し手に伝えようとしていることとして適切なものを選択する問題は80%の正答率でした。

スピーチの内容を、友達からもらった意見をもとに書き直す問題の正答率は64%で、友達の意見を踏まえずに誤答となった割合は全体の20%でした。伝えたい事柄や事実が、相手に分かりやすく伝わるよう、工夫して話したり書いたりすることに課題があると考えられます。

● 3 必要な情報を集める ●

文学作品を紹介するための下書きの説明として、適切なものを選択する問題は81%、下書きを資料を参考に書き直したものとして適切なものを選択する問題は83%の正答率でした。

作品紹介をよりよいものにするためのアンケートについて、対象と質問内容、「質問についての回答を基にした内容を載せることで作品に興味をもってもらえると考えた理由」を記述する問題の正答率は73%でした。作品に興味をもってもらえると考えた理由を書くことができずに誤答となった割合は全体の16%でした。

【課題となっている問題例】

三 石井さんは、「意見2」を受けて、「スピーチ」の——線部「玉を受け止めるときは、今私がやったようにひざを動かすとよいです。」を聞き手に分かりやすいように直すことにしました。あなたならどのように直しますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1

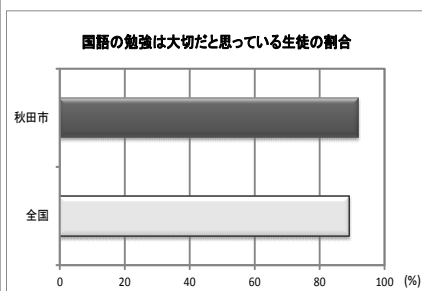
【本の一部】を参考にして、「意見2」にある「どのようにひざを動かすのか」と「なぜひざを動かすとよいのか」が分かるように書くこと。

条件2

「玉を受け止めるときは、」に続けて、四十文字以上、八十文字以内で書くこと(解答用紙に書かれている書き出しの字数を含みます)。

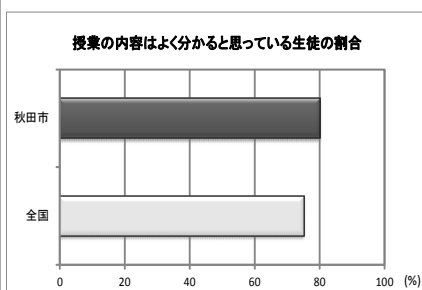
※正答例等は、紙面の関係で省略します。

質問紙調査から 「国語の学習について」



本市では、生涯にわたって学び続ける力を育成するために、子ども一人ひとりが学ぶ意義や、「『分かった』『できた』を実感し、『もっと学びたい』という意欲が持てるような授業」づくりを大切にしています。

「国語の勉強は大切だと思うか」という質問に対し、肯定的な回答をした生徒の割合は92%でした。多くの生徒が国語を学習することの意義を感じていると考えられます。また、「国語の授業の内容はよく分かるか」という質問に対して肯定的な回答をした生徒は80%で、全国平均を5ポイント上回っています。



解答を文章で書く問題で、「最後まで解答を書こうと努力した」と回答した生徒の割合は80%で、全国平均を8ポイント上回っています。

「読書は好きか」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は81%で、全国平均と比べて11ポイント上回っています。全校一斉読書の実施や委員会活動、学校図書館サポーターの効果的な活用など、各校の活動の成果が現れているものと考えられます。

授業の内容に関する質問では、「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている」と回答した児童は77%で全国平均を11ポイント、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」と回答した児童の割合は78%で全国平均を16ポイント上回っています。

中学校国語「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査(ペーパーテスト)では測れない学力として、学習に対する意欲や関心に加え、音読や朗読する力、自分の考えを発表する力、話題に沿って話し合う力など、音声による表現力があります。

各校では、単元のねらいを達成するために、単元導入時において既習事項を活用した言語活動を設定したり、友達との交流を通して考えを深めることができるような学習形態を取り入れるなど、具体的な手立てや単元構成が工夫され、子どもたちが主体的に学習に取り組む様子が見られます。古典や詩歌の学習では、小学校での学習を踏まえた音読や朗読に加え、登場人物や作者の思いについて交流するなど、表現する楽しさを感じ、言語活動を通して読み深め、作品の世界を楽しんでいる姿が見られます。

しかし、聞き手を意識して表現や構成を工夫して話をしたり、客観的な根拠を示しながら、自分の考えに説得力を持たせたりすることなどについては、十分とは言えない状況にあります。

学習指導改善のための今後の方策

●主に知識に関する調査結果から●

「話すこと・聞くこと」については、相手や目的に応じて適切に表現する力を高めるとともに、資料を活用しながら話すことができるような指導の工夫を図ります。

「書くこと」については、根拠となる事柄や具体例を示しながら説明したり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫して書く力を高めるとともに、書く楽しさや表現する喜びを実感することができるような指導の工夫を図ります。

「読むこと」については、叙述をもとに文章の構成や展開をとらえたり、目的に応じて必要な情報を読み取り、それらを関係付けて読む力を高める指導の充実を図ります。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、事象や行為などを表す語句の知識を身に付けるとともに、文脈の中で適切に使うことができる力を高めることができるような指導の工夫を図ります。

●主に活用に関する調査結果から●

伝えたい事柄や事実を、相手に分かりやすく伝えるために工夫して表現することができるよう、目的や意図を明確にして情報を集めたり、収集した情報を読み手の立場に立って取捨選択するなど、相手や状況、場面などに応じて伝えたい事柄を収集・整理するとともに、文章を整える力を高める指導の工夫を図ります。

表現技法に関する知識を身に付けるとともに、伝える楽しさや伝わる喜び、表現を工夫して伝えるよさや、自分自身の変容を実感できるような指導の充実を図ります。

●本調査では測れない学力の状況から●

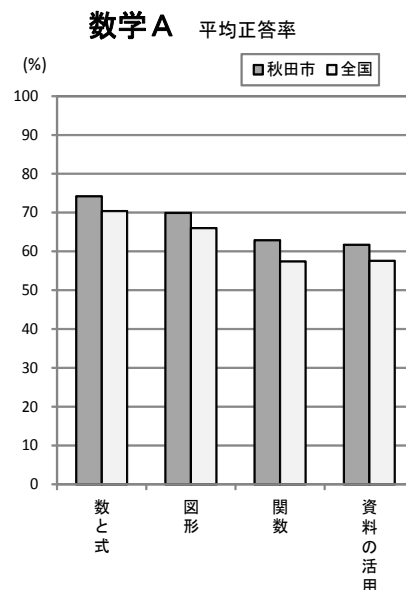
表現や構成を工夫して話をしたり、客観的な根拠を示すなど、聞き手の興味・関心を高め、説得力のある話し方を工夫することができるような指導の充実を図ります。また、お互いの考えを吟味したり根拠の妥当性を検討したりする過程を大切にした指導の工夫を図ります。

中学校数学 A「主として知識に関する問題」 領域ごとの調査結果の主な特徴 【平成 29 年度】

● 数と式 ● 問題 1、2、3

3月25日を基準にして3月23日を負の数で表す問題の正答率は92%でした。また、一元一次方程式を解く問題の正答率は88%で、全国平均を5ポイント上回っています。

一方、数量の関係を文字式で表す問題、数量の関係を一元一次方程式に表す問題の正答率は、いずれも59%でした。具体的な事象において数量の関係をとらえ、文字式で表すことに課題があると考えられます。



● 図形 ● 問題 4、5、6、7、8

平行移動した図形をかく問題の正答率は93%でした。また、証明で用いられている三角形の合同条件をかく問題の正答率は85%で、全国平均を6ポイント上回っています。

一方、おうぎ形の弧の長さを求める問題の正答率は37%、円柱の体積を求める問題の正答率は56%でした。おうぎ形を円の一部としてとらえること、柱体を底面の平行移動によって構成される立体としてとらえることに課題があると考えられます。

● 関数 ● 問題 9、10、11、12、13

比例の式において、示された x の値に対応する y の値を求める問題の正答率は88%でした。また、変化の割合が2である一次関数の表を選ぶ問題の正答率は64%でしたが、全国平均を8ポイント上回っています。

一方、長方形の縦の長さと言面積の関係を、「…は…の関数である」という形で表現する問題の正答率は23%、反比例の表から比例定数を求める問題の正答率は42%でした。関数の意味を正しく表現すること、式と表を関連付けて比例定数をとらえることに課題があると考えられます。

【問題例参照】

● 資料の活用 ● 問題 14、15

さいころを投げるとき、それぞれの目の出方が同様に確からしいことの意味を問う問題の正答率は84%で、全国平均を6ポイント上回っています。また、袋の中から1個の玉を取り出すときの確率を求める問題の正答率は82%でした。

一方、資料の範囲を求める問題の正答率は33%、度数分布表をもとにある階級の相対度数を求める問題の正答率は48%でした。範囲の意味を理解すること、相対度数を求めることに課題があると考えられます。

【課題となっている問題例】 9 関数の意味

縦と横の長さの和が20 cmの長方形について、「縦の長さを決めると、それにもなって面積がただ1つに決まる」とう関係があります。

下線部を、次のように表すとき、 と に当てはまる言葉を書きなさい。

は の関数である。

正答 ①：面積 ②：縦の長さ (23%)

誤答例 ①：縦の長さ ②：面積 (26%)

※無解答率は14%でした。

中学校数学B「主として活用に関する問題」 観点ごとの調査結果の主な特徴【平成29年度】

● 物事を観察し、的確にとらえる ● 問題 1、2、5

度数分布表から、ある標本が含まれる階級の度数を求める問題の正答率は86%、つながった六角形を5個つくるのに必要なストローの本数を求める問題の正答率は81%でした。

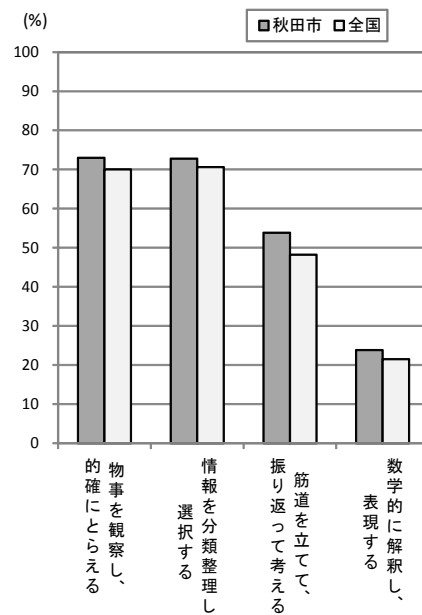
一方、ある模様となるような万華鏡を作るとき、そのもととなる三角形の模様を選択する問題の正答率は55%でした。観察や操作を通して、図形とその構成要素の関係を見だし、図形の性質や特徴をとらえることに課題があると考えられます。

● 情報を分類整理し、選択する ● 問題 3、5

問題に示されている情報から、それを表すグラフ上の点を選択する問題の正答率は95%でした。

一方、表やグラフの特徴をとらえ、適切な代表値を選択する問題の正答率は51%でした。資料を整理して情報を読み取り、適切な代表値を選択することに課題があると考えられます。

数学B 平均正答率



● 筋道を立てて、振り返って考える ● 問題 2、4

与えられた説明の筋道を読み取り、必要な事象を文字式で表す問題の正答率は51%でしたが、全国平均を7ポイント上回っています。

一方、二つの角の大きさが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する問題の正答率は50%でした。証明の結論を導くには何が分かるとよいか明らかにしたり、着目すべき性質や関係を見いだしたりすることに課題があると考えられます。

● 数学的に解釈し、表現する ● 問題 1、2、3、5

与えられた式から a の変域に対応する b の変域を求める問題の正答率は50%でしたが、全国平均を6ポイント上回っています。

一方、二つの図形の関係がどのような回転移動になっているかを説明する問題の正答率は14%、二つの資料から主張できる傾向を、度数分布多角形の特徴を比較して説明する問題の正答率は16%でした。事柄の特徴や、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題があると考えられます。【問題例参照】

【課題となっている問題例】 1 (2) 万華鏡

図5

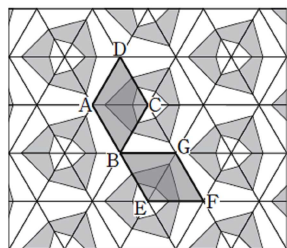
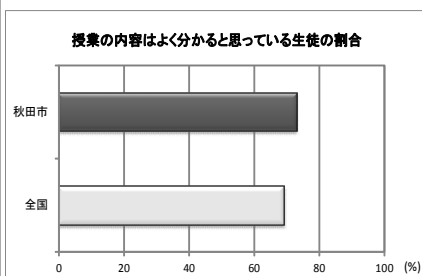
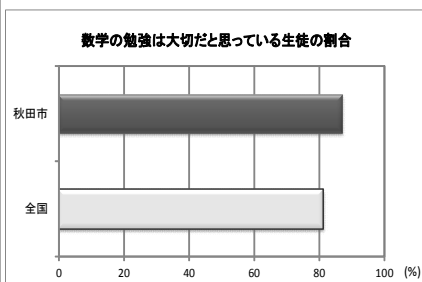


図5の四角形 $ABCD$ の模様は、1回の回転移動で四角形 $GBEF$ の模様になります。四角形 $ABCD$ の模様は、どのような回転移動によって四角形 $GBEF$ の模様になるか書きなさい。

正答例 四角形 $ABCD$ を点 B を回転の中心として、時計回りに 120° 回転移動した図形は、四角形 $GBEF$ に重なる。

※無解答率は10%でした。

質問紙調査から「数学の学習について」



本市では、生涯にわたって学び続ける力を育成するために、子ども一人ひとりが学ぶ意義や、「『分かった』『できた』」を実感し、「『もっと学びたい』」という意欲が持てるような授業づくりを大切にしています。

「数学の勉強は大切だと思うか」という質問に肯定的な回答をした生徒は87%で、全国平均を6ポイント上回っています。多くの生徒が数学の学習は大切なものと感じています。また、「数学の授業の内容はよく分かるか」という質問に対し肯定的な回答をした生徒は73%で、全国平均を3ポイント上回っています。

「数学で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えるか」という質問に対しては、肯定的な回答をした生徒が59%で、全国平均を14ポイント上回っています。

「公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしているか」という質問に対して80%、「問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えるか」という質問に対して76%の生徒が肯定的に回答しています。また、「解き方が分からないときあきらめずにいろいろな方法を考える」と答えた生徒は78%でした。

中学校数学「本調査（ペーパーテスト）では測れない学力の状況」

本調査（ペーパーテスト）では測れない学力として、「学ぶ意欲」などの興味・関心に関するものや、自分の考えを伝える力、相手の考えを聞き取る力などがあります。

各校では、日常的な事象を学習課題に設定したり、課題の提示場面にICTを効果的に活用したりする工夫が見られ、生徒は意欲的に課題解決に取り組んでいます。また、生徒指導の3機能を生かした授業実践が積み重ねられ、安心して自分の考えを表現したり、相手の考えを真剣に聞こうとしたりする態度もはぐくまれています。

一方、グループ活動において、それぞれの考えを発表するだけになってしまったり、生徒だけの課題解決に苦勞したりしている場面も見られます。教師が適切に支援をしながら、話し合う目的を明確にした学び合いを工夫する必要があります。

学習指導改善のための今後の方策

●主に知識に関する調査結果から●

「数と式」については、具体的な数や言葉を使った式を利用して数量の関係をとらえ、文字式で表したり、その意味を解釈したりする学習を重視します。

「図形」では、観察、操作の活動を通して図形相互の関連をとらえ、面積や体積等を求める方法の理解を深める指導を充実を図ります。

「関数」では、事象の中にある二つの数量の変化や対応の様子を調べ、それらの関係を見いだす学習を重視し、関数や比例定数などの用語の意味を実感を伴って理解できるようにします。

「資料の活用」では、表やグラフの特徴を説明する活動を通して、代表値の必要性と意味の理解の定着を図ります。

●主に活用に関する調査結果から●

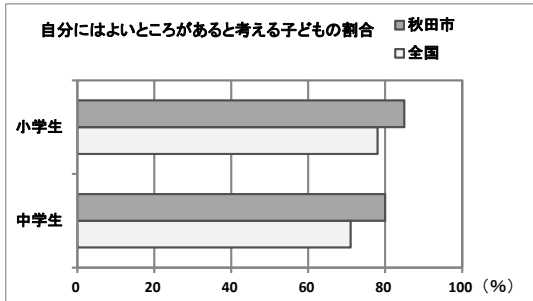
日常的な事象において、図形やグラフ等に注目して見いだした特徴を数理的にとらえ、問題解決の方法や判断の理由を、数学的な表現を用いて説明する学習の充実を図ります。資料に基づいて事象を考察する場面においては、判断の根拠となる代表値などの情報を適切に選択したり、資料から読み取ることのできる分布や散らばりなどの傾向を的確にとらえ説明したりする活動の充実を図ります。また、図形の性質を考察する場面においては、身の回りにある模様を取り上げその対称性などの特徴を観察したり、性質が成り立つ理由を筋道立てて説明する活動の充実を図ります。

●本調査では測れない学力の状況から●

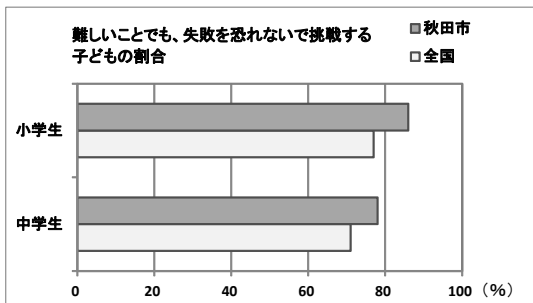
興味・関心を高める学習課題の工夫をより一層充実するとともに、「分かった」「できた」を実感し、「もっと学びたい」につながるような授業づくりを重視します。そのために、生徒の実態を把握して既習事項の定着を図り、教師が適切に関わりながら、一人ひとりが粘り強く学習課題に取り組める工夫をします。また、伝える必要や聞く必要のあるグループ活動を設定して、協働的に学ぶよさを実感させる指導の充実を図ります。

児童生徒質問紙調査の結果から【平成29年度】

● 自分自身について ●

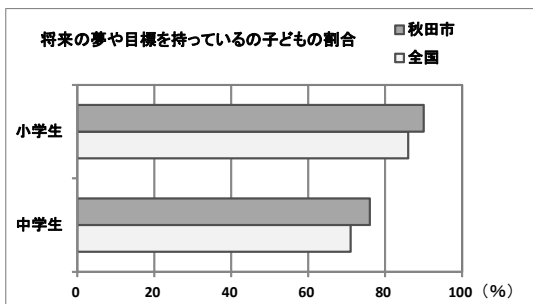


「自分には、よいところがあると思う」と回答した子どもの割合は、小学生で85%、中学生では80%となっており、全国平均を小学生で7ポイント、中学生では10ポイント上回っています。

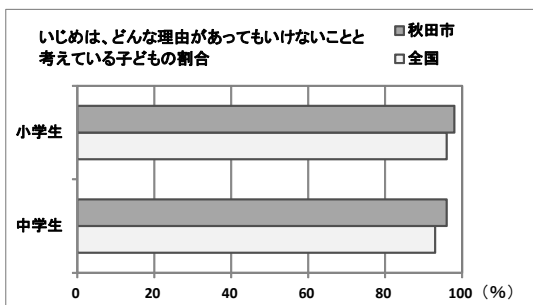


「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」と回答した子どもの割合は、小学生・中学生共に97%で、いずれも全国平均を2ポイント上回っています。

「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する」と回答した子どもの割合は、小学生で86%、中学生では78%となっており、全国平均を小学生は8ポイント、中学生では7ポイント上回っています。



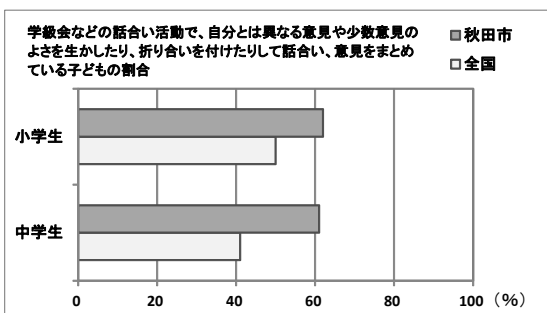
「将来の夢や目標を持っている」と回答した子どもの割合は、小学生で90%、中学生では76%となっており、全国平均を小学生で5ポイント、中学生では5ポイント上回っています。また、「人の役に立つ人間になりたい」と回答した子どもの割合は、小学生・中学生共に95%で、全国平均と比べると小学生で3ポイント、中学生では3ポイント上回っています。



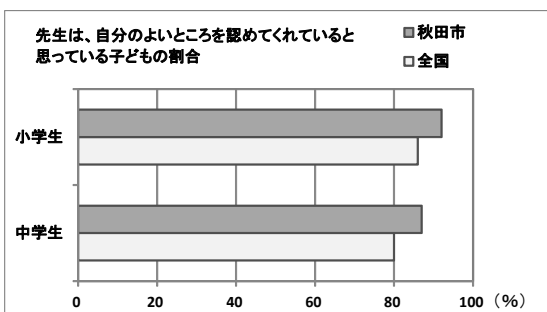
「学校のきまり（規則）を守っている」と回答した子どもの割合は、小学生で95%、中学生では97%で、いずれも2ポイント全国平均を上回っています。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答した子どもの割合は、小学生で98%、中学生では96%で、全国平均を小学生で2ポイント、中学生で3ポイント上回っています。

児童生徒質問紙調査の結果から【平成29年度】

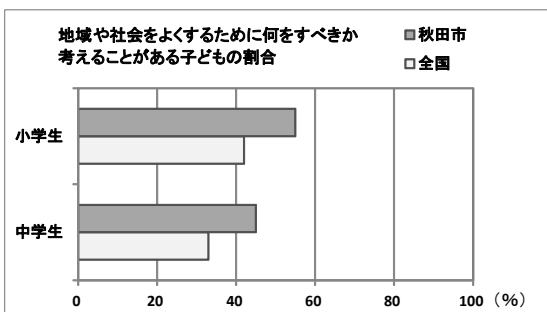
● 人との関わりについて ●



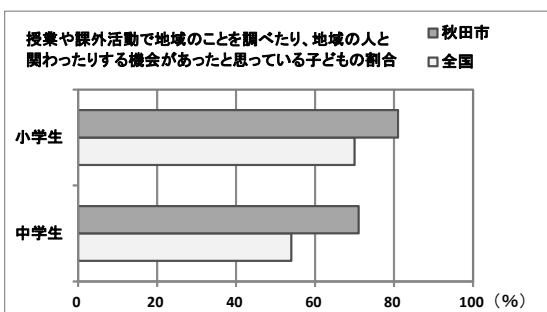
「学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いを付けたりして話し合い、意見をまとめている」と回答した子どもの割合は、小学生で62%、中学生では61%で、全国平均を小学生で12ポイント、中学生では20ポイント上回っています。また、「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」と回答した子どもの割合は、小学生で92%、中学生では90%で、いずれも全国平均を4ポイント上回っています。



「先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う」と回答した子どもの割合は、小学生で92%、中学生では87%で、全国平均を小学生で6ポイント、中学生では6ポイント上回っています。



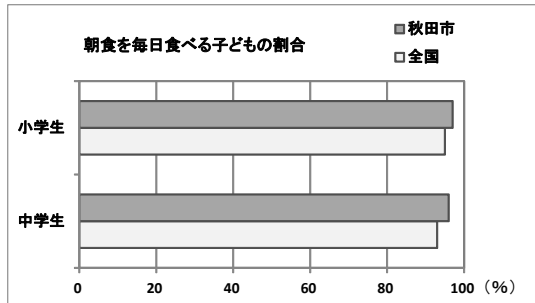
「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と回答した子どもの割合は、小学生で73%、中学生では67%で、全国平均を小学生で10ポイント、中学生では7ポイント上回っています。また、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある」と回答した子どもの割合は、小学生で55%、中学生では45%で、全国平均を小学生で13ポイント、中学生では12ポイント上回っています。



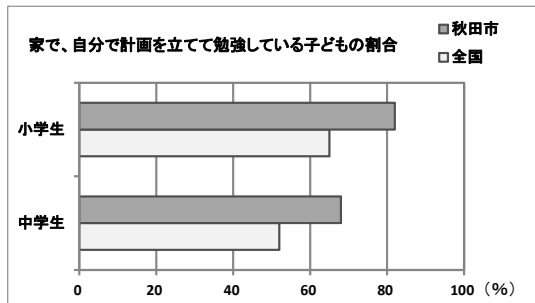
そのほか「授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う」と回答した子どもの割合は小学生で81%、中学生では71%で、全国平均を小学生で11ポイント、中学生では18ポイント上回っています。「地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある」と回答した子どもの割合は、小学生で37%、中学生では21%となっており、全国平均を小学生で4ポイント、中学生では2ポイント下回っています。

児童生徒質問紙調査の結果から【平成29年度】

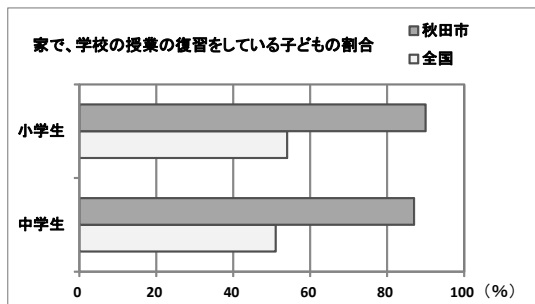
● 家庭生活について ●



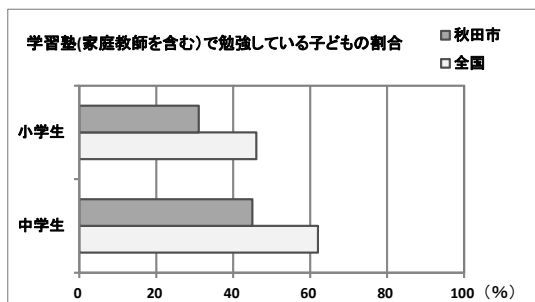
「朝食を毎日食べているか」という質問について、肯定的な回答をした子どもの割合は、小学生で97%、中学生では96%で、全国平均を小学生で1ポイント、中学生では3ポイント上回っています。また、「毎日、同じくらいの時刻に起きる」と回答した子どもの割合は、小学生で94%、中学生では95%で、全国平均を小学生で3ポイント、中学生では2ポイント上回っています。そのほか、「毎日、同じくらいの時刻に寝る」と回答した子どもの割合は、小学生で84%、中学生では80%で、いずれも全国平均を4ポイント上回っています。



「家で、自分で計画を立てて勉強をする」と回答した子どもの割合は、小学生で82%、中学生では68%で、小学生で17ポイント、中学生では16ポイント全国平均を上回っています。



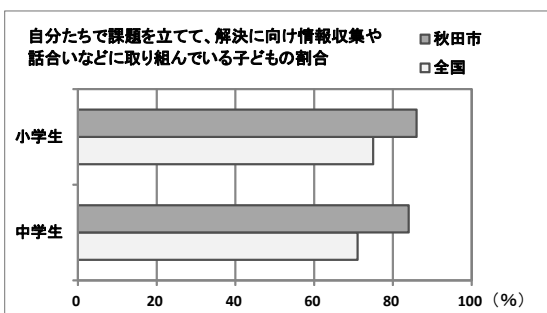
「家で学校の授業の予習をする」と回答した子どもの割合は、小学生で59%、中学生では51%で、全国平均を小学生で18ポイント、中学生では20ポイント上回っています。また、「家で学校の授業の復習をする」と回答した子どもの割合は、小学生で90%、中学生では87%で、いずれも全国平均を36ポイント上回っています。



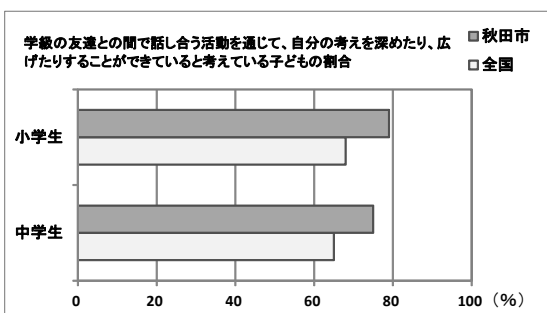
「学習塾(家庭教師を含む)で勉強している」と回答した子どもの割合は、小学生で31%、中学生では45%となっており、いずれも全国平均を16ポイント下回っています。

児童生徒質問紙調査の結果から【平成29年度】

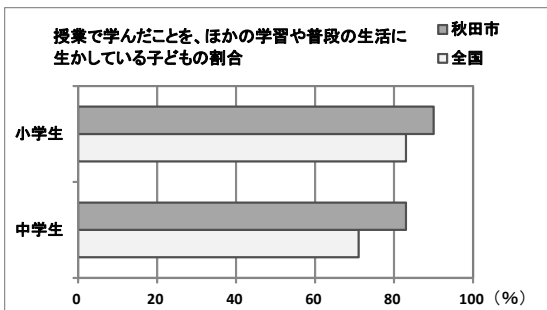
● 学習について ●



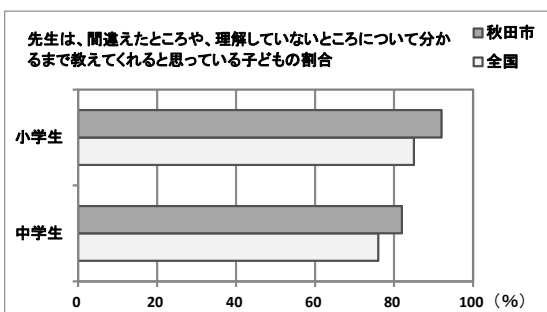
「学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答した子どもの割合は、小学生で86%、中学生では84%で、全国平均を小学生で11ポイント、中学生では12ポイント上回っています。また、「友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができる」と回答した子どもの割合は、小学生で91%、中学生では93%で、全国平均を小学生で5ポイント、中学生では4ポイント上回っています。



「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」と回答した子どもの割合は、小学生で79%、中学生では75%で、全国平均を小学生で11ポイント、中学生で10ポイント上回っています。また、「授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていた」と回答した子どもの割合は、小学生で91%、中学生では90%で、全国平均を小学生で6ポイント、中学生では8ポイント上回っています。



「授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしている」と回答した子どもの割合は、小学生で90%、中学生では83%で、全国平均を小学生で8ポイント、中学生では12ポイント上回っています。



「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と回答した子どもの割合は、小学生で92%、中学生では82%で、全国平均を小学生は7ポイント、中学生では7ポイント上回っています。